

五月十日

昨夜と今朝で彰国社原稿書き上げる。昨夜は地下でバロック風包みの話で一人盛り上がった。まだ若いね我ながら。明日は久し振りに休むぞ。何もしないで菜園づくりだ。十八時前大久保通りを歩いていたら「石山さん」と後ろから声を掛けられ振り向けば、何と坂田明。お互い少し疲れ気味で、それでもブツ倒れた坂田が復活してキツチリそこに立っていたのは本当嬉しかった。十三日ピットインでやるそう。これは何かの縁だ。行かなくては。坂田明は復活しておった。健は死んだが、まだまだ友は残っているぞ、指折り数える位になったが。ベーシーの菅原に電話した。「オヤ、石山さん入院してるの」だって。坂田健在を知らせる。

五月十一日

午後友岡さん来世田谷、猪苗代湖鬼沼計画の相談。十年がかりの計画だと言うから、やってみようと思う。

五月十二日

実感としたら久し振りの世田谷村ミーティング。朝十時から夜二十一時まで。流石に疲れた。ほとんど全てのプロジェクトに目を通した。が、よい方向へ行けば良いのだけれど。

五月十三日

生活道具のデザインの流れがどうもうまくいっていない。柴原だけが前向きで他のスタッフは全く熱が入っていない。何故？もっと小刻みな進め方をしなくてはいけないのか。中断するわけにはいかないのだから手を打つ必要がある。住宅と道具の難しさのレベルが理解できていないのだろう。道具の方が難易度は高いのにナア。機能を生み出す可能性があるのにナア。午後建築展メンバー来室。ヨシこの位の人数ならば直接指導してやろう。朝山邸十勝スケッチ深夜まで。やっぱり原稿書くより、スケッチの方が楽だ。この実感は変なモノだ。実二。